AGU NEWS

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY NEWS

2016 No.80
[2016年2月～5月号]

青山学院大学
〒150-8366
東京都渋谷区渋谷4-4-25
http://www.aoyama.ac.jp/

特　集

学長・副学長メッセージ

伝統と改革を織り交ぜ 学生が成長を実感する大学へ

比較芸術学科第1期生の卒業を迎えて

TOPICS

青学・アディダス　共同企画「コスメティック バッグ」誕生
硬式野球部 吉田正尚選手ドラフト会議でオリックスから1位指名
山岳部 真下孝典さん、ヒマラヤ未踏峰ジャネⅡ峰登頂達成
AGU Pioneers 海外体験支援（給付型奨学金）プログラム報告

AGU Lecture

臨床心理学・卒業研究Ⅰ・Ⅱ

第92回 東京箱根間往復大学駅伝競走
笑顔の連覇！

©月刊陸上競技

昨年は往路、復路、総合のすべてで記録を塗り替え「初優勝」を果たし、
今年は39年ぶりに１区から10区まで一度もトップを譲らない「完全優勝」を達成！

Aoyama Gakuin since 1874

伝統と改革を織り交ぜ 学生が成長を実感する大学へ

2015年12月16日（水）、法学部の三木義一教授が第18代青山学院大学学長に就任しました。大学に変革が求められる今、本学では新学長のもと、どのような改革が行われるのでしょう。三木学長と新たに就任した3名の副学長が、今後の抱負、大学としての取り組みなどについて語りました。

本学の目標は、スクール・モットー「地の塩、世の光」を体現し、向上心、主体性、実践力を備えたリーダーを育成することです。また、「地域・日本・東アジア・世界」という重層的な共同体の一員としてのアイデンティティーを抱き、学問を通じて人と社会を支える市民を養成することです。私は第18代学長としてその目標に向けて尽力すると共に、本学の社会的評価をより一層高めるよう、教職員と全力を挙げて改革に取り組みたいと考えています。

改革の主軸は、大学全体のグローバル化推進のため、教育環境の拡充と整備を図ることです。国際学術共同研究の推進、海外留学・海外インターンシップ制度の充実をはじめ、海外から多様な留学生を受け入れ、国際色を豊かにします。また、「英語の青山」の伝統を生かした高度な外国語教育の実施や、多くの学生に海外留学の道を開くこと、そして国内ではインターンシップ制度の一層の充実やボランティア活動の制度化、ゼミでの研究の多様化などを進めます。

学問研究の場としての本学の役割についても、さらなる充実を図りたいと考えています。教員が研究の醍醐味を学生に伝えることができ、職員のサポート体制が整備できれば、本学はより一層「学生が成長を実感する大学」になるはずです。それだけ本学の学生たちの潜在能力は高いものがあります。

このような改革により、学生たちは優れた専門性を持ち、日本および国際社会の中での自己の役割を自覚し、人に優しいリーダーとして活躍してくれるはずです。そういう学生が多数生まれる大学でありたいと考えています。

学長　三木 義一　任期：2015年12月16日～2019年12月15日

1950年生、一橋大学大学院法学研究科公法専攻博士課程退学。博士(法学)。2010年本学法学部に就任。2014年法学部長に就任し、2015年12月31日まで兼務。租税法学会、日本税法学会、日本財政法学会等に所属。

「真の大学人」と共に理想の大学を目指す

副学長　篠原 進　任期：2015年12月16日～2017年12月15日

定年まで、あと2年というところでこのような成り行きとなり、正直言って当惑しています(びっくり、ポンというところです)。

ただ、三木先生、押村先生、田中先生と何度かお会いして、お話しをする中で(お三方とも社会科学系の方なのですが)、実学のみでなく、一見役に立たないと思えるもの、今すぐ役に立たないもの、広い意味での「教養」を大切に考える「真の大学人」であるということが分かり、4年間というフルマラソンは無理でも、2年間のハーフマラソンなら、走れるかもしれないと考え、「知的な刺激に満ちた、いつも明るく、前向きで居心地の良い大学」を理想とする三木先生を支える三本の木の、少し頼りない一本として、ご協力を承諾した次第です。

多くの方に「ミッキー」と気軽に呼んでいただける、所謂(いわゆる)「ミッキープロジェクト」の一員として、決して上から目線になることなく、常に一教員、研究者としての視点で考え、学生の皆さんや先生方がこれまで以上に学習やご研究に打ち込めるよう、2年間、頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

1949年生、青山学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得済退学。文学修士。1986年本学文学部に就任。文学部日本文学科主任、図書館長、青山スタンダード教育機構副機構長を歴任。日本近世文学会、全国大学国語国文学会、日本文学協会等に所属。

社会に出てからも自ら知識を高める学生を育成

副学長　田中 正郎　任期：2015年12月16日～2017年12月15日

私は、厚木キャンパスが新設された年に経営学部専任講師として採用されて以来33年間、経営学部で教育研究に携わってきました。このたび、副学長という大役を務めることになりました。私の役割は、三木先生がまかれる種がしっかりと根を張ることができるよう、大地を深く耕すことだと考えています。

現在、教育に求められているのは、学問的な知識を与えることばかりではありません。学生たちが卒業後、社会に出てからも「自ら持続的に知識を高める力」を修得させることは、現在の大学に与えられた責務です。そういった力を身に付け、社会で活躍できるような人材の育成に尽力したいと考えます。同時に、学生たちには、目標や進むべき道を見つけ、それに向かって邁進(まいしん)する喜びをこの大学で知ってほしいと思います。そしてよく学び、多くの人と出会い、切磋琢磨しあい4年間を過ごした最後に、「この大学で学べて良かった」と言えるような大学づくりをするのが私の使命だと感じています。

1952年生、甲南大学大学院社会科学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得済退学。経営学修士。1982年本学経営学部に就任。経営学部経営学科主任を経て、2009年より経営学部長に就任。日本商業学会、日本マーケティング・サイエンス学会等に所属。

中期・短期目標を設定し、その達成に一丸となって取り組む

副学長　押村 高　任期：2015年12月16日～2017年12月15日

本学に奉職して22年、二つの感謝を忘れたことはありません。一つはこの大学が与えてくれる研究環境に対してです。清潔に保たれたキャンパス、静寂な研究室、そして立派な仕事をしている同僚に囲まれて、研究することができました。もう一つは教育に関してで、俊才、秀才を教育する喜びをこの大学で得ることができました。現在、私のゼミの卒業生は200名を超え、それぞれが世界各地で意義のある仕事をしています。そのような学生が集まるのも本学の伝統の力、そして魅力があるからに外なりません。

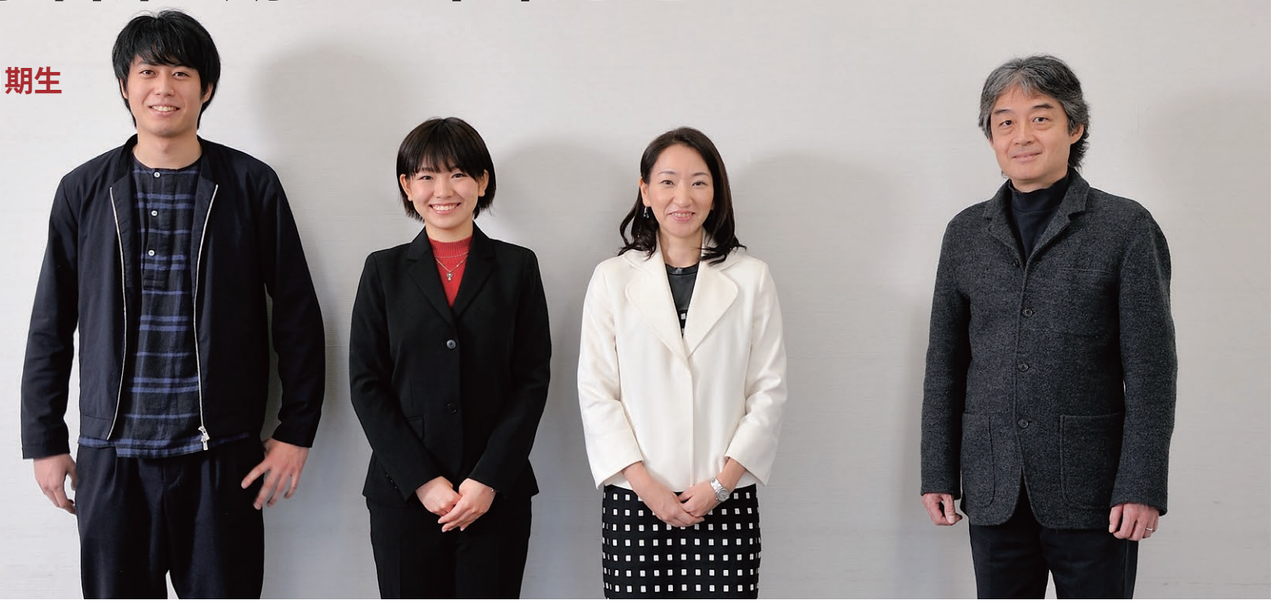
本学の崇高な教育理念、建学精神は、時代を経ても揺るがないものです。ただ、大学運営には中期目標、短期目標も必要です。執行部の役割は、適切な目標をしっかり設定し、知恵と力を結集していくことだと考えます。私の担当の一つとして、国際交流と渉外があり、これまで以上にグローバル化を図っていくためにも、海外の大学をモデルにするといったことも含め、いろいろ提案しお役に立てればと思っています。

1956年生、早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。博士(政治学)。1993年本学国際政治経済学部に就任。国際政治経済学部国際政治学科主任を経て、2012年より国際政治経済学部長に就任。日本政治学会に所属。

特集

比較芸術学科第1期生の卒業を迎えて

芸術を学ぶ喜びを堪能、学科の可能性を広げた1期生



4年前に新設された文学部比較芸術学科の第1期生が、今春卒業を迎えます。学業に真剣な姿勢で取り組むだけでなく、一致団結して様々な企画を打ち立て学科を盛り上げた学生たちの熱意と行動力は、先生方の想像をはるかに上回るものでした。比較芸術学科を率いてきた先生と1期生の学生に、この4年間を振り返っていただきました。

左から

稲葉 光治 さん　文学部 比較芸術学科4年
福岡県立修猷館高等学校出身
内定先：株式会社サガテレビ

岡林 ももこ さん　文学部 比較芸術学科4年
高知県私立土佐塾高等学校出身
内定先：松竹株式会社

出光 佐千子 准教授　文学部 比較芸術学科（専門：日本美術史）

那須 輝彦 教授　文学部 比較芸術学科主任（専門：音楽学〈西洋音楽史〉）

（以下敬称略）

那須　第1期生を迎えたとき、「君たちは比較芸術学科に入ったんじゃない。君たちが比較芸術学科をつくるんだよ」と言ったことを覚えています。4年後の今、君たちは本当によくやってくれたと思う。熱心に勉強しただけでなく、自主的に様々な活動をしてくれました。まず学科を「ヒゲ（またはヒゲイ）」と呼び始め、ヒゲのロゴ入り豪華カラー刷り季刊誌『HIGE会報』を創刊して健筆を振るい、諸研究会を設立し、APC（青山パフォーミング・アーツ・クラブ）なるサークルを立ち上げ、ついにはヒゲ美女（笑）カレンダーまで作って見事に学科を盛り上げてくれた。すばらしい1期生でした。

出光　そうした学科への愛は、普段の授業にも溢れていましたね。美術作品のスライドを見せるたびに、学生の目がキラキラするんです。その情熱に応えるため、私自身も夢中になって日々作品と向かい合って美しい写真入りのスライドを作るという、これまでにない貴重な体験をしました。最初は日本画のことを何も知らなかった学生たちが、ゼミ選択の際には自分の好きな作品や作家を熱く語れるようになっていたのは嬉しかったですね。

稲葉　自分の場合も授業で「本物を鑑賞する」ことが大きな糧となり、成長につながったと思えています。また、芸術は一人で静かに鑑賞するというイメージが強かったのですが、1期生はみんな仲が良かったので、よく一緒に作品を見に行きました。相手の感想や意見を聞くことで自分の感性が広がるのも実感できたことは大きな収穫でした。

岡林　そうですね。私もとにかく幸せな4年間でした。自分の好きなものについて話せる友達もいることが本当に幸せで、毎日が楽しくてたまりませんでした。もちろん個性豊かな先生方からも常に大いに刺激を受けました。東洋にも西洋にもすばらしい文化や芸術があることを学んでいるうちに、それらを受け止めるだけでなく発信したいという新たな思いも生まれ、今の就職につながった気がします。

那須　洋の東西を問わず、何百年も風雪に耐えた芸術の価値はやはり揺るぎない。そして美術、音楽、演劇はある時代精神のもとで複合的に絡み合っているものです。だからこそわが学科は「古典重視」「比較学習」「鑑賞教育」をキーワードにしているのです。3つ目のキーワードの実践として土曜日には毎週のように美術館見学や演奏会鑑賞、観劇がありましたね。この3本柱に加え、芸術と不可分である宗教の基盤があり、総合大学として学際的に学ぶ環境が整っていることが本学で芸術を学ぶ強みといえるでしょう。

出光　本学科なら自分が恋に落ちるような作品に、4年の間に出会うことができます。良いものだけを見ていれば、次第に悪いものが分かるようになっていき、これだという作品に出会えるのです。また、テキストを読む力も重視しました。作品の意味の奥深いところまで追究するには、感性を磨く努力とテキストを読む力の両輪が必要です。良いものを見る目を養うだけでなく、それをうまく表現できてこそ、この学科での学びが生かされるのです。

那須　芸術など専攻して就職はどうなるのかという不安を抱いた人もいるかもしれないけれど、他の学科と遜色ない結果になりました。何であれ有為の学生が真剣に勉強すれば、今の世の中、それは認められるということですね。さて、その勉強ですがお二人は、どんな授業や講演が特に印象に残っていますか？

稲葉　2年生の必修科目だった「芸術と法」です。特定の作品を取り上げてそれが芸術的価値の高いものなのか、あるいは世間一般にありふれた世俗的なものなのか、法と照らし合わせていく内容でした。僕はもともと芸術について無知だったので、だからこそ学んでやろうと思いこの学科を選びました。何も知らなかった入学時の自分なら、対象の作品を単に世俗的ととらえたでしょう。しかし、1年間学んだことで、受講終了時には芸術的な観点からも考えられるようになっていました。この授業によって作品の価値を多角的な視点で考える力を、よりしっかりと身に付けることができました。

岡林　私の場合は、先日の桂歌丸師匠の特別講演会で、歌丸師匠が「俺は目をつむる瞬間まで舞台の上で語っていたい」と話されていたのが、胸にどーんと響きました。自分なりにいろいろなものを鑑賞してきましたが、実際に現場の最前線で活躍されている方は、私たちには到底理解できないほどのプレッシャーがあることでしょう。たくさんの重いものを背負いながら高座に座り、そう言い切った師匠の眼差しの強さは、その日は眠れなかったくらい強烈でした。

那須　そういえば、先輩がいないという環境は、皆さん全く気にしている様子がありませんでしたね（笑）。

稲葉　僕の場合は「先輩がいなくてラッキー」とまで思っていました（笑）。先輩がいる中で自分から発信するのは勇気がいることです。僕自身は大丈夫だったと思いますが、周囲の仲間が全員そうとは限りません。しかし先輩がいなかったからこそ「やってみようかな」と思うことや思う人が増えたと考えれば、むしろ恵まれていたのではないでしょうか。

岡林　私も気になりませんでした。『HIGE会報』の初代編集長を務めさせていただきましたが、もしも先輩がいらっしゃったら、雑誌作りは先輩から聞いた話を踏襲して進めただけだったと思います。自分たちで一から作るのは大変でしたが、だからこそやりがいもあるし、可能性も広がりました。先生方も「やってごらん」と応援してくださる方ばかりでしたので。

稲葉　むしろ自分たちがやらないと、後輩が戸惑ってしまうこともあるかもしれない、そんな思いもありました。やはり1期生の「自由」には「責任」も伴っていたと思います。

那須　卒業後はこの学科で学んだことをどう生かしたいですか？

稲葉　地方にも芸術を浸透させ、それによってその地域の魅力も増やしていきたいと考えています。学科で学ぶうちに芸術が東京ばかりに集中していることに強く疑問を抱くようになりました。これからは就職先の地元九州のテレビ局から芸術を発信していきたいです。

岡林　物質的に豊かなのに悲しいニュースが多い今だからこそ、私は「ヒゲ」で学んだことを生かして松竹株式会社で、誰かの心が温まったり、思い出の一部になれたりするようなすばらしい作品に関わっていければと思っています。

出光　1期生卒業のときは泣いてしまいそうです（笑）。皆さんは、私自身も幸せにしてくれる学生たちでした。これから旅立っていく姿を見送ることができるのが嬉しいですし、卒業後こそ社会での活躍をずっと応援したいです。

那須　本学には大学院文学研究科比較芸術学専攻がありますが、これからは、本学科から進学する学生も出るわけです。美術・音楽・映像演劇という3分野においての本格的な研究者が育っていくことも大いに期待しています。最後にもう一度、1期生にはとにかく感謝です。

桂歌丸師匠特別講演会を開催

2015年11月5日（木）、青山キャンパス本多記念国際会議場にて、落語家の桂歌丸師匠をお招きして特別講演会を開催しました。まずお弟子さんの桂歌助師匠が前座として『都々逸（どどいつ）親子』を演じると、学生たちの緊張した空気が大きな笑いと共にほぐれました。続いて高座に上がられた歌丸師匠は、ご自身の体調について笑いに包んでお話しされたあと、『つる』を口演され、その絶妙な話芸に会場は一層大きな笑いに満ち、圧倒されました。その後のお話で、芸を磨くために歌舞伎を観ることや、明治の落語家三遊亭円朝の創作落語を埋もれさせず継承していく意志と工夫についてなどを歌丸師匠から伺ったことは、大きな学びとなりました。最後に「なぜ長く落語を続けてこられたか」という学生の質問に対する「好きだから。好き以外にない」との歌丸師匠のお答えは、学生たちの胸に深く響きました。芸術を学ぶ原動力を再確認し、これからの学生生活や進路に対する前向きな力を与えてくださるものとなりました。

（文学部 比較芸術学科准教授　佐藤 かつら　記）

青学・アディダス　共同企画　「コスメティック バッグ」誕生

本学とアディダス ジャパン株式会社のパートナーシップ契約の活動の一環として、「女性向け商品企画・提案」を募集、学生とアディダス ジャパンが共同企画した女性向けスポーツトート、「コスメティック バッグ」が誕生しました。バッグのコンセプトは「持ち歩ける“パウダールーム”」。透明のファスナーポケットで細かいアクセサリーなどが探しやすい「コスメとアクセが“もてる”」、デオドラント消臭機能によりスポーツ後のシューズも爽やかに収納できる「シューズが“もてる”」、A4書類とシューズ、ウェアを分けて収納できる「スタイリッシュに“もてる”」の3つの「もてる」を実現。個性的で幅広い青学生のファッションにも合うシンプルなデザインに仕上がりました。

企画に参加した文学部英米文学科4年生の玉井南実さん、齋藤萌恵さん、井部千紗都さんの3名は、「ヒット商品をつくる」をテーマに行われた審査で、3名1グループのチーム制で応募した100名を超える学生の中から選ばれました。「スポーツとおしゃれを両立させたい」という企画のもと、共同企画に半年以上の時間を費やし、女性のための「コスメティック バッグ」が完成しました。細部にまでこだわって彼女たちのアイデアが生かされた商品は、本学購買会、アディダス直営店、アディダス オンラインショップなどで販売しています。

優勝したチームのメンバー、左から齋藤さん、井部さん、玉井さん

仲間と挑んだ「アイデアをカタチにする」

玉井 南実さん　文学部 英米文学科4年　東京都立目黒高等学校出身

仲間と一緒に学生時代の思い出をつくることができれば、と思ったことが参加のきっかけでした。また「好きなブランドでもの作りがしてみたい」という気持ちも大きかったです。自信を持ってプレゼンをしたはずがフィードバックを受け、企画書をゼロから書き直したこともあり、学ぶことが多い貴重な経験となりました。「アイデアをカタチにする」ということが子どもの頃からの憧れだったので、仲間と考えた商品が世の中に出ると決まったときは、涙が出るくらい嬉しかったです。何事もチャレンジすることが大事だと、改めて実感しました。

硬式野球部 吉田正尚選手ドラフト会議でオリックスから1位指名

硬式野球部の吉田正尚選手（外野手、社会情報学部社会情報学科4年）が2015年10月22日(木)、プロ野球の「2015年新人選手選択会議（ドラフト会議）」で、オリックス・バファローズから1位で指名を受けました。

吉田選手は、東都大学野球のリーグ戦に1年生の春から出場。昨秋までの3年間は東都大学1部リーグで活躍し、今シーズンの2部春季リーグ戦では打率3割8分9厘を記録。秋季リーグ戦では、打率4割、5本塁打、15打点の成績で三冠王に輝くなど、本学の中心選手として活躍していました。

ドラフト会議当日、本学にて行われた記者会見の様子

また大学日本代表として、3年連続で国際大会にも招集され、第27回ハーレムベースボールウィークでは全試合にスタメン出場し、打者成績トップとなる打率3割を記録。第28回ユニバーシアード大会では、すべての試合に4番として出場し、チームの初優勝に貢献しました。

山岳部 真下孝典さん、ヒマラヤ未踏峰ジャネⅡ峰登頂達成

山岳部主将の真下孝典さん（教育人間科学部教育学科4年）が隊長を務める「日本山岳会学生部ネパール東部登山隊2015」が、ネパール東部未踏峰のジャネⅡ峰（6318m）初登頂に挑みました。この登山隊は公益社団法人日本山岳会の110周年記念事業の1つとして発足されたもので、真下さんはじめ計6名の学生が参加。登山隊は2015年9月上旬に日本を出発、誰も登ったことのない頂へのルートを開き、10月4日（日）正午（現地時間）、見事登頂に成功。真下さんは「海外遠征という壮大な計画をゼロから生み出すのは大変でしたが、6つの大学からの混成隊で、所属も力量もばらばらのメンバーが無事に同じ頂に立てたことが、本当に嬉しかったです。かつて本学山岳部はジャネⅡ峰の隣の山への遠征を計画しましたが、実現しませんでした。そのような歴史もあり、登頂にはひときわ感慨深いものがあります」と語りました。

山頂で本学のフラッグを持つ真下さん

AGU Pioneers 海外体験支援（給付型奨学金）プログラム報告

AGU Pioneers 海外体験支援（給付型奨学金）プログラムは、海外でインターンシップやフィールドワーク、ボランティアなどに参加する学生を支援する制度です。4週間以上の短期派遣者に20万円、12週間以上の長期派遣者に50万円が支給されます（2015年度実績）。「国際的な視野を持って活躍するリーダー候補」の育成を目的としており、自主的かつ実践的な活動により、将来につながる海外体験を希望する学生を対象としているのが特徴です。

海外プログラムの参加目的や今回の経験を帰国後にどう生かすかなど、応募した学生によるプレゼンテーションが行われ、その内容をもとに受給者を決定します。選考過程においては、学生自身の意欲と共に、活動の計画性やプレゼンテーション能力、将来のビジョンなども問われます。

今回は2014年度本プログラムに参加した学生の中から、カンボジアとフィリピンで海外体験を行った2名の活動報告を紹介します。

失敗を恐れずに挑戦したことで、卒業後にアジアで働くイメージがつかめた

島田 楓さん　経営学部 マーケティング学科2年　北海道札幌南高等学校出身
活動期間　2015年2月3日～3月2日

カンボジア・プノンペンにある日本人経営のカレー屋で、店舗のマネジメントから接客までを通して日本食を普及させるというインターン型起業プログラムに参加しました。このインターンに参加する以前から、日常的によく耳にする「グローバル人材」という言葉の本質が自分には見えず、何をもって「グローバル人材」というのか腑に落ちずにいました。その疑問を胸にカンボジアへ。そして、1ヵ月間現地でビジネスに携わって感じたのは、「適応力」を持つ人こそがグローバル人材だということです。日本の当たり前は海外においては通用せず、日本では考えられないようなトラブルがたくさんあります。それに翻弄されずに、ビジネスを滞りなく行うということは非常に難しいですが、この環境に適応する力こそ必要だと痛感しました。われわれはいつまでも先進国であるという自負を持ち続けていては、急速に成長を遂げている東南アジアに置いていかれてしまいます。だからこそ、自分は日本の再成長を促していけるような「グローバル人材」になろうと強く決意した1ヵ月となりました。

ハンディキャップを抱えた子どもたちとの出会いが「幸せ」を考えるきっかけに

老川 力翔さん　文学部 フランス文学科2年　埼玉県立不動岡高等学校出身
活動期間　2015年2月8日～3月23日

フィリピン・マニラでインターンシップを行いました。「がん」などの病気や障がいを抱えた子どもたちを対象に、折り紙や水彩画などのアートアクティビティを行うなど、文化交流や教育的な内容の活動です。「がん」を患った子どもたちは、投薬治療によって髪の毛は抜け落ち、手に管を付けていましたが、遊んでいる様子は“今を生きている”という実感に満ち溢れていました。一方、障がいを持つある少年は、自宅の板敷の部屋に横たわっていて、これから先もこの狭い世界でしか生きることができないのかと思わせるような現実に強い衝撃を受け、涙が止まりませんでした。一方は近い将来に命は絶えてしまうかもしれないけれど、今を精一杯明るく楽しく生きている。他方はこれから長い時間を生きていけるけれど、自力で今を生きるという感覚を手にすることはできない。この環境の差を目にしたことで、幸せとは何かについて考えるきっかけになりました。今後は1人でも多くの学生が自分の幸せについて認識することができる機会に携わり、日本の明るい社会を創出できる人材の輩出に貢献したいと思います。

青山学院大学産学合同万代外国留学奨励奨学金

海外留学を志す学生を対象として、本学と株式会社太平エンジニアリングが合同で学業資金としての奨学金を給付します。経済的負担の軽減と外国留学の奨励を目的に、設置しています。

協定校留学奨励奨学金
給付金額　50万円
募集人数　第一期・第二期　合計20名程度
対 象 者　協定校（派遣交換）留学者、フランシュ・コンテ大学留学者

認定校留学奨励奨学金
給付金額　[学部] 文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部　80万円
理工学部、社会情報学部、地球社会共生学部　100万円
[大学院] 全研究科　50万円
募集人数　第一期・第二期　合計10名程度
対 象 者　協定校（私費）留学者（フランシュ・コンテ大学、ガウチャー大学を除く）、認定校留学者

いずれも半期留学の場合は、給付金額の半額を支給。詳細は本学ウェブサイト（http://web.iec.aoyama.ac.jp/）でご確認ください。

AGU Lecture 079

臨床心理学・卒業研究Ⅰ・Ⅱ

小俣 和義
教育人間科学部 心理学科教授

臨床心理学とは、精神疾患や心身症、心理的な問題や不適応行動などへの援助、回復、予防、そしてその研究を目的とする心理学の一分野です。心の問題を抱えている人をサポートし、専門技法を用いて解決していく実践活動に基づいた学問で、主に心理査定、心理面接、地域援助、研究という4本柱から成り立っています。

年末、学生は卒業研究の追い込み期間です。私のゼミナール（ゼミ）では週に一度、ゼミ生全員で集まり、各自の研究に関する発表およびディスカッションを行っています。今年度のゼミ生の多くが大学院進学を希望したとあって、研究活動にはとても意欲的で、各自が設定したテーマに粘り強く取り組んでいます。また、これまでも学部生・院生合同の交流行事やゼミ合宿の企画、運営など、チームワーク良く行ってくれました。

授業を受講する学生は態度も真面目で、レポートや課題もしっかりこなします。その一方で、質問の時間に積極的に発言する学生が、以前よりも少なくなってきている気がします。そこで、私から一方的に知識を伝える形にならないように、グループワークやロールプレイを実施し、話し合う時間を設け、授業に主体的に取り組んでもらうように工夫しています。また、適宜リアクションペーパーも使用し、学生のニーズに応えるような対話型の授業も行っています。さらに、心理臨床の実践における具体例を提示して、体験を通した学びの機会になるように工夫しています。

私の研究テーマは、精神科領域での心理臨床実践、および親子面接をはじめとする家族支援の有効なアプローチ法などで、東日本大震災で被災した宮城県でも支援活動を行ってきました。これまでの心理支援のモデルは、相手が来るのを待ち、相談に訪れた方に個別に対応する形が多かったのですが、それだけでは健康や予防の面で限界があります。被災地や緊急支援の際は自ら出向き、多くの人とコミュニケートしながらケアしていくアウトリーチの発想が必要なのです。臨床心理学を学ぶ上で大切なのは、実践の学びとしていかに社会に還元できるか、人々の生活に役立てるかを考えることです。そのためには社会人としてのマナーや常識感覚、相手をよく理解していくための共感性や倫理観を養う必要があります。そして、他者の心の痛みに想像力を駆使して寄り添い、目の前で起こる出来事に真摯に向き合っていく姿勢を忘れないでほしいと思います。

小俣ゼミ学生
宮井 遥さん
教育人間科学部
心理学科4年
神奈川県立
神奈川総合高等学校出身

心理学を学べば学ぶほど、人の心は複雑で簡単に理解できるものではないことを感じます。答えが一つではないことが、心理学を学ぶ難しさであり、面白さであるのかもしれません。小俣先生は、授業の中で実際の臨床現場における事例をたくさん紹介してくださいます。また、グループワークが多いため、授業で学んでいることが実際にどのように生かされてくるのか、体験して理解することができます。今までは、理論と実践がなかなか結び付かないように感じることもありましたが、先生の授業を通じてそれらがつながってきました。

卒業研究では「大学生の心理的居場所感とレジリエンスの関係」をテーマに研究を進めています。研究テーマに迷っていたとき、小俣先生が私の興味のあることの中からキーワードとなるものを引き出して下さり、やりたいことが明確になりました。研究が行き詰まったときには、「自分自身は何がしたいのか」という先生の問いかけを思い出し、初心にかえって頑張ることができました。

卒業後は大学院に進学が決まっています。将来は臨床心理士の資格を取得し、スクールカウンセラーなど教育関係の仕事に就きたいと思っています。

Information

2015年度 青山学院学術賞

「青山学院学術賞」は、専門分野の研究において学術の進展に寄与すると認められる業績を発表した青山学院の専任教員に授与される賞です。2015年度は大学から以下の3名が受賞しました。

■ **文学部 史学科　北村 優季 教授**
[著書]　『平城京成立史論』（吉川弘文館　2013.11）

■ **法学部 法学科　松川 実 教授**
[著書]　『アメリカ著作権法の形成』（日本評論社　2014.9）

■ **理工学部 電気電子工学科　米山 淳 教授**
[体系的研究]　ファジィシステムに基づいた制御系設計に関する研究

就職活動時期の変更を受けて

日本経団連の「採用選考に関する指針」により、企業の採用選考の広報活動の開始が3年次の3月1日以降、選考活動は4年次の6月1日以降へ変更されました。この変更は、現3年次生（2017年3月卒業見込者）から適用されることになりました。2016年度以降の進路・就職支援の大幅な見直しが必要となっています。

進路・就職支援のプロセス（2016年度 予定）

※行事は変更が生じる場合があります

1・2年次　自分の将来の進路について考え行動する

学生生活の充実
学業
部活
サークル
アドバイザー・グループ
インターンシップ
アルバイト
旅行

【主な進路・就職支援行事】
●進路・就職オリエンテーション
●自己価値発見セミナー
●インターンシップガイダンス
●インターンシップマナー講座
●企業見学
●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
●〈公務員〉集中講座説明会

3年次、修士1年次　自分の将来の進路に向けた具体的な行動を取る

自己分析
業界・企業研究
4～8月
10月
10～12月

【主な進路・就職支援行事】
●進路・就職ガイダンス①
●U・Iターンセミナー①
●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
●〈教員〉公立学校採用試験対策セミナー
●インターンシップガイダンス
●英文履歴書・面接対策講座
●〈公務員〉対策学外講座説明会
●進路・就職ガイダンス②
●自己分析セミナー
●業界・職種の理解
●一般常識模擬試験
●模擬グループ面接
●ビジネスマナーセミナー
●内定者による就活ボランティア活動
●進路・就職ガイダンス③
●〈公務員〉業務説明会
●エントリーシート対策講座
●SPI模擬試験
●面接講座
●模擬グループディスカッション
●U・Iターンセミナー②
●OB・OGによる仕事・業界理解セミナー
●〈公務員〉ガイダンス
●〈教員〉私立小中高教員就職セミナー

企業との接触開始
3月～

●学内企業説明会
●他大学合同模擬グループ・ディスカッション
●OB・OGによる模擬面接
●〈教員〉公立学校教員選考学内説明会
●〈公務員〉試験合格者報告会

4年次、修士2年次

エントリー
履歴書・エントリーシート提出
企業説明会
選考試験（筆記、面接）

内々定
6月～
（企業によっては4月～）

【主な進路・就職支援行事】
●面接対策実践編
●働く前の法知識
●〈公務員〉面接対策講座

内定
10月～

●学内企業説明会
●リスタート就職ガイダンス
●面接対策実践編
●個別相談会

卒業、修了

【随時】個別相談

本学の進路・就職支援体制

1. 個別相談

青山キャンパスでは職員14名、相談員10名が、相模原キャンパスでは職員5名、相談員2名が、常時個別相談にあたっています。共に考えて話し合うことで、一人一人が納得のいく進路・就職ができるように支援を行っています。

相談内容は多岐にわたり、自己PRやエントリーシートの確認、業界研究の方法といった就職に関することのほか、進学や留学など、それぞれの進路に応じたきめ細かい対応を心がけています。就職活動に関する悩みを一人で抱え込まずに、気軽に相談に来てください。

青山キャンパス	
月～金	9:30～11:30　12:30～19:00 （資料室は9:00～19:00）
土	9:30～12:00（資料室は9:00～13:00）

※青山キャンパス個別相談 午後の部は予約制です。

相模原キャンパス	
月～金	9:00～11:30　12:30～17:00
土	9:00～11:30

2. 進路・就職支援行事の開催
3. 就職活動情報・求人情報・卒業生情報提供
4. 進路状況・支援体制満足度調査
5. 企業との情報交換
6. OB・OGからの協力
7. 進路・就職支援システム「Web Ash」

進路の報告のお願い

卒業・修了が決定した学生は、「進路届」を「Web Ash」、もしくは進路・就職センター（青山キャンパス）、相模原事務部進路・就職課（相模原キャンパス）へ提出してください。
※青山キャンパス所属大学院生は、学位記の受け取りの際に「進路届」を提出してください。

Information

卒業・修了、進級および成績に関する日程

日付	内容	備考
3月10日(木)10時30分～	修了決定者発表・成績通知書開示 (専門職大学院)	卒業・修了決定者の成績通知書は、3月26日(土)まで学生ポータル上で閲覧できます。
3月11日(金)10時30分～	卒業決定者発表 成績通知書開示(4年次生・専門職を除く大学院生)	
3月11日(金)	保証人宛成績通知書発送	卒業決定者には発送されません。
3月11日(金)13時00分～	修了決定者発表(大学院)	
3月11日(金)13時30分～	成績通知書開示(1～3年次生)	
	進級決定者発表	進級条件が設定されている学年のみ
	卒業見込可能者発表	理工学部・社会情報学部3年次生のみ
3月26日(土)	学位授与式	所属の学部・研究科によって時間が異なりますのでご注意ください。 詳しくは本学ウェブサイトをご覧ください。 http://www.aoyama.ac.jp/life/schedule/graduation_ceremony_03.html 3月の卒業発表後、保証人の方(専門職大学院は除く)宛にご案内状を郵送いたします。

※詳細は学生ポータルを参照してください。

春期休業期間中の窓口案内
2/3(水)～3/31(木)

春期休業期間中の窓口案内の詳細は

詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。
http://www.aoyama.ac.jp/life/clericalwork/

2016年度 学事暦(学部)

年度初頭のオリエンテーション、履修ガイダンス、健康診断は各学部・学科ごとに行います。
日時・場所の詳細は学生ポータルにて配信しますので、必ず確認してください。

前期

4/1(金)	入学式
4/1(金)～6(水)	オリエンテーション、 履修ガイダンス、健康診断*
4/7(木)	前期授業開始
4/7(木)～13(水)	新入生歓迎礼拝 (青山・相模原キャンパス)
4/15(金)	履修登録最終日
4/29(金・祝)	授業実施日(昭和の日)
5/16(月)	ペンテコステ礼拝(青山・相模原キャンパス)
5/23(月)～ 27(金)	チャペル・ウィーク(前期)
5/24(火)	ジョン・ウェスレー回心記念日礼拝 (青山・相模原キャンパス)
6/11(土)	アドバイザー・グループ・デー (青山・相模原キャンパスとも授業実施)
7/18(月・祝)	授業実施日(海の日)
7/22(金)	火曜日の授業を実施(青山・相模原キャンパスとも)
7/23(土)	水曜日の授業を実施(青山・相模原キャンパスとも)
7/25(月)～30(土)、8/2(火)	前期定期試験期間
8/3(水)～9/15(木)	夏期休業期間
8/1(月)～3(水)	清里サマー・カレッジ
9/24(土)	9月学位授与式

後期

9/16(金)	後期授業開始
9/19(月・祝)	授業実施日(敬老の日)
10/8(土)、9(日)	相模原祭期間(8(土)は相模原キャンパスのみ休講)
10/17(月)～21(金)	チャペル・ウィーク(後期)
10/28(金)～30(日)	青山祭期間(青山・相模原キャンパスとも休講)
10/31(月)	宗教改革記念日
11/3(木・祝)	授業実施日(文化の日)
11/16(水)	創立記念礼拝 (青山・相模原キャンパス)
	授業実施日(創立記念日)
11/25(金)	クリスマス・ツリー点火祭
12/20(火)	クリスマス礼拝 (青山キャンパス)
12/22(木)	クリスマス礼拝 (相模原キャンパス)
12/24(土)～2017年1/5(木)	冬期休業期間
1/6(金)	後期授業再開
1/13(金)～15(日)	大学入試センター試験および同準備日(13(金)、14(土)は青山キャンパスのみ休講)
1/13(金)、17(火)、24(火)	補講日(相模原キャンパス)
1/17(火)、24(火)	補講日(青山キャンパス)
1/25(水)～2/1(水)	後期定期試験期間
3/25(土)	学位授与式
	卒業礼拝

※ 青字は、宗教行事です。
※ **大学院・専門職大学院の学事暦は一部異なります。本学ウェブサイトや『大学院要覧』等を参照してください。**
＊ 健康診断は青山キャンパス4/1(金)～6(水)、相模原キャンパス4/2(土)～6(水)
(ただし4/3(日)を除く)に実施します。

2016年度 学費納付のご案内(学部・大学院)

2016年度在学生の学費(授業料、在籍基本料、施設設備料、教育活動料および諸会費、学会費)納付は、前期・後期とも期限に遅れないようにしてください。

納付のスケジュール

振込依頼書発送　4/12(火)予定
前期分・前後期一括分学費納入期限　5/2(月)
後期分学費納入期限　9/30(金)

納付にあたって

■振込依頼書は、前期分・後期分・前後期分一括納入の3種類を送付します。教職課程・諸資格課程料の加算などによって後期分の納入金額が変更となる場合を除き、改めて送付しませんので、4月に送付する振込依頼書を保管の上、振込手続きをしてください。
■学部生の振込依頼書は、申し出がない限り、原則として保証人宛に送付します。学生本人宛に送付先変更を希望する場合は、学生生活部学費・奨学金課(青山キャンパス)・学生生活課(相模原キャンパス)に「学費振込用紙送付先変更届」を提出してください。
■入金確認のため、大学より送付する振込依頼書を用いて、金融機関窓口で納付してください(ATM・インターネットバンキングを利用される場合は、同封の案内文に記載されている注意書きに従って手続きしてください)。なお、振込手続きの際、公的機関発行の身分証明書等の提示が必要となる場合があります。詳細は各金融機関窓口にお尋ねください。
■最終年次において留年した場合、履修登録単位数によって学費が異なります。履修登録後に学費を算出するため、振込依頼書の発送および納入期限は下表の通り予定しています。

	前　期		後　期	
	発送予定	納入期限	発送予定	納入期限
学 部 生	5/19(木)	6/3(金)	10/18(火)	11/11(金)
大学院生	5/26(木)	6/10(金)	10/25(火)	11/11(金)

相談・問い合わせ先

各種申請は、在学生の方が直接窓口へ来るようにしてください。個人情報取り扱いなどの関係上、電話では承れません。春期休業期間中の窓口開室日時は本学ウェブサイトをご覧ください。

①	**保証人住所の変更 在学生住所の変更**	青山キャンパス　学生生活部 学生生活課 相模原キャンパス　学生生活課
②	**振込依頼書の 送付先変更・再発行 学費の延納・分納**	青山キャンパス　学生生活部 学費・奨学金課 相模原キャンパス　学生生活課
③	**振込手続き、学費一覧表**	青山キャンパス　庶務部 経理課
④	**休学・退学**	〈学部〉 青山キャンパス　学務部 教務課 相模原キャンパス　学務課 〈大学院〉 青山キャンパス 大学院生:学務部 教務課 専門職大学院生:学務部専門職大学院教務課 相模原キャンパス　学務課

青山学院大学教育ローン

本学には、学部生・大学院生を対象とした銀行提携「教育ローン」制度があります。この制度は、青山学院と銀行が特別に提携し、一般の教育ローンより有利な条件を設定したものです。本学で学ぶ意志がありながら、経済的理由により修学を断念することがないよう、在学中の経済的な不安を解消し、勉学に専念できるよう配慮した経済支援制度です。

[特　徴]

1. 一般の教育ローンより低金利で融資を受けることができます。
2. 在学期間中の元金返済据置の制度もあります(在学中は利息のみを支払い、卒業後、元利を併せて返済することができます)。
3. 原則として、融資された学費等は本学の学費振込用紙によって直接青山学院大学に振り込まれます。
4. 既に学費を納入した場合でも、一定期間内であれば融資を受けることができます。

[利用資格]

本学学部生・大学院生の保護者、または学生本人で銀行の定めた資格を有することが必要です。

[提携銀行]

・みずほ銀行　渋谷中央支店ローン担当係　TEL:03-3462-0313
・三井住友銀行　全国の支店　　・三菱東京UFJ銀行　全国の支店
※銀行によって、融資条件・金利等の契約内容に若干の差がありますので、契約する銀行に問い合わせてください。

2016年度 一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験報告

2016年度一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験はすべての試験が終了し、志願者数は、一般入学試験は46,537名(前年度45,544名)、大学入試センター試験利用入学試験は13,313名(前年度14,194名)でした。

なお一般入学試験においては、最も志願者数の多い試験日で6,526名の受験者が青山キャンパスに来校しました。例年通り本学学生団体(吹奏楽バトントワリング部ならびにキャンパスツアーガイドボランティア)や入試アシスタント学生が、多くの受験者の正門入場や試験室への適切な誘導、試験室の監督補助などを行い、2016年度も学生の大きな協力を得て一般入学試験は無事に終了しました。

正門で受験票を確認する
「吹奏楽バトントワリング部」の学生たち

卒業生の皆さまへ

青山学院校友会ウェブサイト　http://www.alumni-aogaku.jp/

青山学院には、卒業生同士の親睦を深め、母校との絆をつなぐ「青山学院校友会」が組織され、すべての卒業生が正会員として迎えられます。国内56カ所・海外19カ所の地域支部の他、各学部・学科ごとの同窓会や、職種別団体・部活動OB団体等の参加するアイビーグループによって構成されており、多彩な活動を行っています。ぜひ積極的に校友会各組織にご参加ください。

なお、校友会に関する事務局は「青山学院校友センター」となります。校友センターは卒業生の住所など基本情報を管理し、卒業生と母校青山学院とを結ぶ窓口となっています。氏名、住所等に変更が生じた場合は、必ず校友センターへお知らせください。校友センターに寄せられた個人情報は「学校法人青山学院個人情報保護基本方針」にのっとって厳重に管理し、青山学院および校友会活動に関わることにのみ活用されます。

青山学院の広報誌　卒業後『AGU NEWS』の発送は終了しますが、下記の広報誌を通して卒業生の皆さまに「青山学院の今」をお伝えしていきます。

『あなたと青山学院』
住所の判明している校友全員に定期的に無料でお送りしています。
〔住所変更・発送に関する問い合わせ先〕
青山学院校友センター　TEL：03-3409-6645　E-mail：agkoyu@aoyamagakuin.jp

『青山学報』
1916年創刊の青山学院公式機関誌。法人及び幼稚園から大学・大学院までの青山学院の情報をお伝えしています。年4回の発行で、年間定期購読料は2,000円です。
〔定期購読に関する問い合わせ先〕　青山学院購買会　TEL：03-3409-4401

個人番号（マイナンバー）の利用が始まりました

マイナンバーは、国民一人一人が持つ12桁の番号のことで、社会保障、税、災害対策の分野で利用されます。学生の皆さまもアルバイト先から提示を求められることがあります。マイナンバーは、原則一生涯使うものとなりますので、取り扱いに注意し、安易に友人に教えたりせず、大切に保管してください。詳しくは、学生ポータルまたは下記URLをご確認ください。
http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/bangoseido/index.html

アンケートご協力のお願い

入学広報部では、在学生の保証人の方々に本学の取り組みや在学生の活躍をお伝えするために本誌を制作しております。皆さまのご意見を今後の広報誌制作に生かすべく、アンケート調査を行うことといたしました。つきましては、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。3月31日（木）までにご回答いただいた方の中から抽選で30名に、青学オリジナルグッズをプレゼントいたします！（当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。）

アンケート回答はこちら

Club & Circle 30 バレーボール部女子

お互いに支え合う「チームの和」が強さの源です。

1週間に6日、青山学院記念館（大学体育館）での練習を中心に活動しています。春・秋に行われる関東大学リーグ戦と、6月の東日本インカレ、12月の全日本インカレでの優勝を目標に、日々の練習に励んでいます。2015年度は、全日本インカレで第3位という成績でした。

毎年3月には、全国の学生が集まる合同合宿「スプリングキャンプ」に参加。5日間に及ぶ共同生活を通じて、他大学の学生とも多くの交流があります。

バレーボールはチーム競技であり、強いチームになるためには、一人一人が自分の役割をしっかり果たす必要があります。その点、青山学院大学バレーボール部女子は、学年に関係なくお互いに支え合って、一つの和をつくりあげています。皆全員がなくてはならない存在なのです。良い意味で上下関係があまりなく、笑顔の絶えないチームであること。それが、自分たちの特徴であり、強さの源だと思っています。

（主務・会計：総合文化政策学部 総合文化政策学科3年　土屋 恵子　記）

AGU NEWSについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGU　NEWS」を年4回発行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内専用スタンドにて配布しています。

●バックナンバーは、本学ウェブサイトでご覧いただけます。
●確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった場合は、学生ポータルを利用し、**学生本人が変更手続きをしてください。**

発行元：青山学院大学 入学広報部
TEL：03-3409-8627

本誌掲載の記事、写真、図版などの無断転載・複製を禁じます©2016青山学院大学

●2016年2月29日発行●

大声援を受け 完全優勝で2連覇達成!

第92回 東京箱根間往復大学駅伝競走 全区間1位で完全優勝!

2016年1月2日(土)・3日(日)に開催された「第92回東京箱根間往復大学駅伝競走」で、本学陸上競技部(長距離ブロック)が昨年に続き総合優勝を果たし、2連覇を達成しました。しかも、沿道の大声援を追い風に、1区のスタートから10区のゴールまで一度も1位を譲ることがないという完全優勝。原監督が「チーム全員がハッピーになるだけでなく、見てくれる人もハッピーに」との思いを込めた、"ハッピー大作戦"は大成功。新春から青山学院大学に勝利と笑顔をもたらしました。

©月刊陸上競技

2016年1月2日(土)・3日(日)

第92回 東京箱根間往復大学駅伝競走

総合:10時間53分25秒 1位

往路:大手町〜箱根・芦ノ湖 107.5㎞ 5時間25分55秒 1位
復路:箱根・芦ノ湖〜大手町 109.6㎞ 5時間27分30秒 1位

チームの高い総合力を見せた圧倒的な勝利

昨年の優勝で一躍脚光を浴び、今年の走りも注目された青山学院大学。往路は3区を除く区間で昨年と同じ選手を配置、1区の高速レースを制して流れに乗り、箱根まで順調に後続との差を広げていきます。5区の“3代目山の神”が後続に3分4秒のタイム差をつけ往路を制覇、その勢いを翌日の6区へつなぎました。復路は1年生を含む3名が箱根駅伝初出場でありながら、3区間で区間賞を獲得する堂々たる走りで首位を独走。往路5時間25分55秒、復路5時間27分30秒、総合10時間53分25秒という成績で、1区から独走し全中継所をトップで通過する完全優勝での2連覇という快挙を成し遂げました。これまでの挑戦者という立場から一転、追われる立場となり、重圧と闘いながらの勝利。「昨年は勢いで勝ったんだろうと言われてきたが、今回は組織として陸上部が取り組んでいることが証明できた。真の意味の最強軍団になれた」という原晋監督の言葉には、万感の思いが込められています。

たくさんのご声援をありがとうございました。

往路

1区 大手町〜鶴見 21.3㎞

久保田 和真 選手 区間賞
教育人間科学部4年
1時間01分22秒(区間1位)

昨年と同じ1区で今年は良い流れをつくることができ、笑顔でたすきを渡せました。メンバーや支えてくれた人たちのおかげでMVP(金栗四三杯)もいただけました。

2区 鶴見〜戸塚 23.1㎞

一色 恭志 選手
経営学部3年
1時間07分35秒(区間3位)

トップで受け取ったたすきをトップでつなげてほっとしました。今後は3連覇を目指し、後輩を走りで引っ張っていけるように頑張ります。

初出場

3区 戸塚〜平塚 21.4㎞

秋山 雄飛 選手 区間賞
国際政治経済学部3年
1時間02分24秒(区間1位)

これまで故障が多かったのですが、結果を出せて嬉しいです。監督が背後から面白い言葉をかけてくれたりしたので、リラックスして走れました。

4区 平塚〜小田原 18.5㎞

田村 和希 選手 区間賞
経営学部2年
55分17秒(区間1位)

暑さもあってタイムは区間新を取れた昨年より落ちましたが、後ろを離す走りはできました。来年はエースと呼ばれるような存在になって挑みたいです。

5区 小田原〜箱根 23.2㎞

神野 大地 選手
総合文化政策学部4年
1時間19分17秒(区間2位)

どこを走っていても沿道の声援が聞こえ、大きな力になりました。プレッシャーもありましたが、監督とチームメートのおかげで走り切ることができました。

復路

6区 箱根〜小田原 20.8㎞

小野田 勇次 選手
経営学部1年
58分31秒(区間2位)

往路の先輩たちが大きな貯金をつくってくれたので、楽しんで走れました。区間記録タイだったので、来年は区間新記録の更新を目指します。

7区 小田原〜平塚 21.3㎞

小椋 裕介 選手 区間賞
社会情報学部4年
1時間03分08秒(区間1位)

4年連続7区を走ることができ本当に幸せでした。今年は往路メンバーや4年生メンバーも沿道で応援してくれ、多くの方の声援と共に励みになりました。

初出場

8区 平塚〜戸塚 21.4㎞

下田 裕太 選手 区間賞
教育人間科学部2年
1時間04分21秒(区間1位)

ずっと往路を走りたいと思っていましたが、8区でも納得のいく走りができました。さらに練習を重ね、来年は往路で走れるように頑張ります。

初出場

9区 戸塚〜鶴見 23.1㎞

中村 祐紀 選手
国際政治経済学部2年
1時間11分23秒(区間7位)

同級生の2人が区間賞を取る中で悔しい結果になってしまいました。今春には弟が入部予定なので、「青学に中村兄弟あり」と言われるよう励みます。

初出場

10区 鶴見〜大手町 23.0㎞

渡邉 利典 選手 区間賞
文学部4年
1時間10分07秒(区間1位)

9区までの良い流れを自分で途絶えさせてはいけないと緊張しましたが、後続との差を広げてくれていたおかげで、笑顔でゴールすることができました。

感動をもらうのではなく感動を与えられる人間に

原 晋 監督

昨年の“ワクワク大作戦”に続き、今年は“ハッピー大作戦”と銘打ち、チームのハッピー指数はレース3日前にようやく指数100になり、なんとか戦える状態に持っていくことができました。実は久保田が直前まで調子が悪く走れるか分からない状況だったのですが、その久保田の走りで良い流れが生まれ、優勝できました。かつて私は、3つの言葉を選手にかけました。そのうちの一つが「人から感動をもらうのではなく、人に感動を与えることのできる人間になろう」という言葉でした。今回のレースは、多くの方に感動をお届けすることができたのではないかと思います。駅伝を通じて学院が一つとなる一助となれたことを大変嬉しく思いますし、多くの方々が沿道に駆け付け応援して下さったことを心から感謝します。陸上競技部は単なる課外活動ではなく、青山学院の代表としてこれからも日夜精進していきますので、今後とも変わらぬご声援をよろしくお願いいたします。

「明るく楽しく」の陰にある厳しい練習と泥臭い努力

神野 大地 主将

2日間たくさんの応援をありがとうございました。プレッシャーのかかる1年間でしたが、チーム全員で箱根駅伝連覇を目標にやってきて、それが達成できて本当に嬉しいです。どの沿道でもグリーンの旗が振られ、名前を呼んでくださる声が多かったことも、選手の大きな力になりました。「明るく楽しく」がチームのモットーなので、そういう面だけ見て「軽いノリのチーム」と思われることもありますが、どこよりも厳しい練習を積み、泥臭い努力を重ね、寮で規律ある生活をしているという自負があります。だからこそ、試合で楽しめるのだと思います。この1年間は主将という立場でありながら、けがで走れない時間が長く、箱根駅伝には間に合わないのではと思った時期もありました。けれど監督はずっと信じて下さっていて、さらに4年生の仲間にも支えられ、笑顔で走り切ることができました。今後は後輩たちが3連覇を目指して頑張っていくので、ますますの応援をよろしくお願いいたします。

三木学長 撮影

「第92回箱根駅伝優勝報告会」を開催

2016年1月7日(木)、青山キャンパス ガウチャー記念礼拝堂前で、「第92回箱根駅伝優勝報告会」が行われました。最初に原晋監督による優勝報告が、続いて出場した各選手からの挨拶があり、集まった約3,000名の方々から盛大な拍手が起こりました。さらに内山義英陸上競技部部長より感謝の言葉が述べられ、最後は神野大地主将による「トラックシーズンを含め、1年を通して応援していただけることが選手の励みにもなるので、引き続き応援よろしくお願いします」という挨拶で締めくくられました。

2015年10月12日(月・祝)
第27回
出雲全日本大学選抜駅伝競走
3年ぶり2度目の優勝！

箱根駅伝、全日本大学駅伝と並び「大学三大駅伝」の一つに数えられる出雲駅伝において、2時間09分05秒という記録で3年ぶり2回目の優勝をかざりました。

出雲大社正面鳥居前から出雲ドーム前までの45.1kmを6名のランナーがたすきをつなぐレース、三大駅伝経験者の上級生と力をつけてきた三大駅伝初出場の下級生を組み合わせた布陣で臨みました。3区で2位から1位に逆転。その後5区では2位となりましたが、6区で再び逆転し、最後は2位に38秒差をつけてフィニッシュ。選手の層の厚さを示す結果となりました。

2015年11月1日(日)
第47回 秩父宮賜杯
全日本大学駅伝対校選手権大会
本学過去最高順位で第2位！

熱田神宮から伊勢神宮までの106.8km、8区間を競う全日本大学駅伝。1区から激しいトップ争いが繰り広げられ、一時は3位まで順位を落としますが、5区の下田裕太選手の力走により、秒差なしの首位でたすきをつなぎます。その後、逆転を許し初優勝にはなりませんでしたが、5時間14分08秒という記録で、同大会本学史上最高位の総合2位でゴール。次回大会のシード権を獲得しました。前回大会より順位を上げ、3分16秒縮まった総合記録は、選手たちの1年間の成長を物語るものでした。